# 町長の まち・ひと・しごと 魅力発信

~ 事業所訪問 vol.28 ~

# 「農業生産法人 合同会社 守屋農園

町内には、優れた技術を持った会社が多く 存在します。事業所の持つ技術や 魅力を町長自ら訪問して、目で見て、 お話を伺い、住民に情報発信する 「事業所訪問」を 連載します。

## 町長の見て・聞いて・話して

第28回の事業所訪問は、4月23日に小鹿野町般若の 農業生産法人合同会社守屋農園を訪問し、守屋善雄代 表にきゅうり栽培を始めた頃のお話から伺いました。

昭和20年代、守屋善雄代表のお父様がきゅうりの露 地栽培を始めたときは、土の上に稲わらを敷き詰め定植 していましたが、やがて細い木と漁網を使って栽培をし ていたそうです。その後、小鹿野町のきゅうり栽培の先 駆者の一人として、地域の人に限らず栽培方法を教える など、きゅうり栽培を広めていくと、農協に園芸部会がで き、東京市場に出荷ができるようになったとのことでし

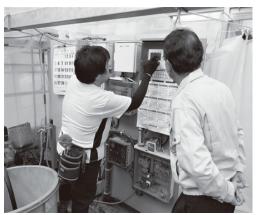
守屋代表ご自身は、 会社勤めをしていまし たが、会社が休みの時 には、家族とともにきゅ うり栽培を手伝ってい たそうです。そうした経 験や家族の助けもあ り、お父様が急逝され きゅうりの管理方法の説明を受ける森町長



たとき、すぐに会社を辞め、本格的にきゅうり栽培を始め ることができたとのことでした。その後、以前から興味の あった大型ハウスによる栽培を行うため、平成22年、国 の補助金を活用するために当時6人で小鹿野ハウス組 合をつくることにより、組合員それぞれが大型ハウスに



よる栽培が始められ、 小鹿野町のきゅうり栽 培の大型ハウス化の きっかけになったそう です。その結果、収穫 量も増え収入も安定し たことから、小鹿野ハ ウス組合員の家では



ハウスの制御システムの説明を受ける森町長

跡継ぎができる ようになり、ま た、新たにきゅ うり栽培を始め る人も増え、平 成30年の産地 パワーアップ事 業では、9人の」 Aちちぶ園芸部 会の会員が大

型ハウスを建設しました。現在出荷所では、きゅうりの出 荷箱とともに若い人も多くなり、とても活気があるそう です。そして、守屋代表の息子さんも本格的に跡を継ぐ 決心をしたことをきっかけに、平成28年3月「合同会社守 屋農園」として法人化することになったとのことでした。

守屋代表は、小鹿野町の新規就農者を育成する担い 手育成塾の指導農家として、小鹿野町外から来た塾生に もきゅうりの栽培方法を指導、伝授し、何人もきゅうり農 家として一人立ちさせるなど、秩父きゅうり農家全体に 大きな貢献をされたことが認められ、令和元年度埼玉農 業大賞地域貢献部門優秀賞を受賞されました。

最後に、守屋代表から、今後は小鹿野町をきゅうり産地 として少しでも大きくし、機械による自動選果ができるく らいの規模にしていきたいと、これからのきゅうり栽培に 向ける意気込みをしっかりと話していただけました。

### わが社の主力製品

もちろん「きゅうり」、みずみずしさ、しゃきしゃきした歯 でたえにこだわり、東京市場4社に出荷箱にある「小鹿 野」の文字を見て選んでもらえる信頼を得ています。

#### ここに自信あり

小鹿野町のきゅうり栽培の特色は土づくり。大豆粕や 菜種粕など、一定の面積に決められた量を入れなければ



出荷時に等級を落とす など厳しく管理され、秩 父きゅうりのブランドを 守っています。先代から の積み重ねにより得ら れたブランドを守り、お いしいきゅうりをこれか らも栽培していきます。

守屋代表(右側)

#### 会社概要

設備・面積 大型ハウス5棟及びパイプハウス、約8,000㎡

代表 者代表 守屋善雄

従業員数 社員10名・パート6名

業 2016年3月7日

所 在 地 小鹿野町般若648番地

話 0494-75-2585